

日本鉄鋼協会記事

理事會

第6回理事会 開催日：9月12日。出席者：佐野会長
他28名。

会議事項

1. 第78回（昭和44年）秋季講演大会開催地の件
広島大学で開催を一応予定し中国四国支部に準備願うことになった。
2. 表彰規程中一部変更の件
西山賞、西山記念賞の制定に伴い一部変更した企画委員会案を承認した。
3. 共同研究会製鋼部に電気炉分科会設置ならびに同分科会主査委嘱の件
製鋼部に電気炉分科会を設置することおよび同分科会主査に日本製鋼所の松本取締役を委嘱することを決定した。
4. 共同研究会設備技術部会クレーンスケール小委員会解散の件
通産省の補助金を受けて製鉄作業用クレーンスケールの実用化試作の研究を行なってきたが成功裡に完了したのでクレーンスケール小委員会を解散することを決定した。
5. 第6回原子力総合シンポジウム共催の件
共同主催（予定）
応物、化学工学、計測自動制御、高分子、電気化学、電気、電気通信、土木、化学、機械、金属、建築、原子力、鉱業、水産、鉄鋼、非破壊、物理、分析化学各学協会
期日 1968年2月中旬
会場 教育会館
共催することに決定。

企画委員会

第6回企画委員会 開催日：9月11日。出席者：吉崎
企画委員長，他17名。

会議事項

1. 表彰規程一部変更の件
西山賞、西山記念賞の追加により、一部変更する変更原案を特別表彰のうち俵賞の重要性に鑑みその序列を変えたほかは承認し理事会に諮ることになった。
2. 川崎製鉄西山記念資金取扱規程制定の件
新たに設けるもので、八幡製鉄渡辺記念資金取扱規程に様式をそらえた。
3. 各委員会に対する来年度予算案提出依頼の件
共同研究会の各部会長、分科会主査やその他の委員会の委員長に担当委員会の来年度予算案を提出するよう企画委員長名で依頼することを決定した。
4. 第4回X線材料強度に関する討論会協賛の件
主催 日本材料学会
期日 昭和42年11月24、25日
会場 山口大学工学部
協賛することを企画委員会として決定。

5. 第21回塑性加工シンポジウム協賛の件

主催 日本塑性加工学会

期日 昭和42年11月16日

会場 規格協会

協賛することを企画委員会として決定。

研究委員会

第6回委員会 開催日：9月12日。出席者：佐野会長
三本木委員長，他25名。

会議事項

1. 基礎問題小委員会の報告および検討
(1) 基礎共研パナジウム研究の件
原則としてニオブと同様の方式で遂行することが了承された。
(2) 鉄鋼協会内の基礎研究体制について
プロセスの共同研究会に匹敵する基礎研究組織を設定することが決定され、詳細は小委員会、懇談会に審議を委ねられた。
2. 大型プロジェクト研究の導入について
通産省の大型プロジェクト研究に鉄鋼開発部門を持ち込むことについて検討次回継続審議となった。
3. 鉄鋼材料のデータシート集録研究の件
材料部門の強化のために、標準化委、共研、新設基礎研グループの連繫を考え具体案を検討してゆくことになった。
4. 文部省科学研究費特定研究テーマの件
「鉄鋼材料の強度と脆性に関する研究」を学術会議を通して働きかけることになった。

編集委員会

第4回運営委員会 開催日：9月19日。出席者：荒木
委員長，他12名。

会議事項

1. “鋼の熱処理”改訂編集について
昭和32年出版の“鋼の熱処理”の増補改定版が、丸善より出版されることとなった。出版分科会を委員会とし、昭和44年4月、春期講演大会に間に合うように発行の予定。
2. “訪ソ日本鉄鋼協会学術使節団報告書”（仮題）出版について
ソ連におけるシンポジウムの報告書は、“日ソ学術論文集”（仮題）として、報告論文を中心にして出版されることとなった。
3. 論文集発行について
寄稿規程の改定により、今秋の講演大会のあと論文が多く投稿された場合には、論文集を発行する旨が審議された。

第7回和文会誌分科会 開催日：9月19日。出席者：
荒木主査，他20名。

会議事項

1. 論文審査報告
2. 推せん論文および技術資料について

依頼論文 2 件, 技術資料 12 件の推せんがあり著者の意向を尋ねた後依頼することになった。

3. 論文審査規準について

寄稿規程改訂に伴い論文審査規準を検討の結果, 次回に事務局より規準案を出すことになった。

4. 会告のしかたについて

他団体との共催記事は会員へのサービスのためだけにだけ詳しく掲載することにした。

第 7 回欧文会誌分科会 開催日: 9 月 18 日. 出席者: 橋口主査, 他 13 名.

会議事項

1. 原稿の審査報告

掲載可と報告された論文 1 件.

著者に修正を依頼するもの 1 件.

再審査を必要とされる論文 1 件.

2. Trans. ISIJ に Editorial Committee として欧文会誌分科会委員のみが記載される案が編集運営委員会に持ち出されることに決定.

3. 役員の記載はすべて氏名のみとし, 年 1 回詳しい紹介記事を出すことにする. また, 前会長の記載は, 任期を省いてアルファベット順にする.

4. 分科会委員よりの投稿勧誘論文(外国 2 件を含む)の 14 件が承認された.

資料委員会

第 5 回委員会 開催日: 9 月 8 日. 出席者: 草川委員長, 他 12 名.

会議事項

1. 7 月号から掲載した, 鉄連発行の「資料月報」について現在のところあまり反響がないが, こういう種類の資料は, 期間がある程度経過してから役立つ種類のものであるので今後も続けて掲載することにした.

2. 資料活動の一端として協会の活動を何らかの形で調査して(閲覧者の調査, 注文者の調査)今後の協会の資料活動を打ち立てることにした.

3. “鉄と鋼”の分類について, 何回も討議してきたが, 前回の資料(鉄鋼協会図書一資料分類方法)を参考に, 事務局で大雑把な分類法を次回まで提出することになった.

4. 論文索引カードの過去 3 年間(昭和 39 年, 40 年, 41 年)に, “鉄と鋼”に発表された全論文(約 1200 件)のものについて, カードを各社に頒布することにした.

共同研究会 鋼管部会 継目無鋼分科会

第 1 回分科会 開催日: 8 月 21, 22 日, 出席者: 原田部会長, 井上主査, 他 29 名.

会議事項

1. マンネスマン関係

(1) 磨管機における圧延機で発生した耳部厚肉の消去について

・圧延機で発生した耳部厚肉に磨管左下電流を増加することによりほとんど消去することができる.

(2) 熱間工具の形状, 材質, 原単位について

各社の熱間工具の材質, 化学成分, 熱処理, 原単位, ライフなどについてアンケートをまとめ討論した.

2. 押し関係

押しにおける偏肉の要困について

ダイス面角度, コンテナ内径とピレット外径のクリアランス, マンドレル外径とピレット内径のクリアランスの偏肉に及ぼす影響を調査するための共同実験を行なった. その結果ダイス面角度を 1° 傾けたところ明らかな差が現われた.

溶接管分科会

第 1 回分科会 開催日: 8 月 28, 29 日, 出席者: 山田主査代理, 他 37 名.

会議事項

1. 電縫管関係

(1) 溶接性の限界について

化学成のうえから溶接性の限界について討議した. C 当量では 0.60 まで, 低合金鋼では Cr 1.0% まで可能であるという意見の一致をみた.

(2) フッククラックの実状対策

A 系介在物を Al の投入により B 系, C 系にかえること, 溶接速度を増すことにより発生を防止することができる. NDI でのリジェクトはオーバーアクションになる恐れがあるという意見が多かった.

2. サブマージトアーク溶接

スパイラル設備の照介を各社で行なった.

鉄鋼分析部会

化学分析分科会

第 5 回分科会 開催日: 9 月 7, 8 日. 出席者: 神森主査, 他 42 名.

会議事項

1. 工技院より鉄鋼協会に対し鉄および鋼の炭素, けい素, マンガン, いおう分析方法の JIS 原案作成の正式依頼があつた旨事務局より説明があつた.

2. 新鉄鋼標準試料の成績表より求めた鉄および鋼の化学分析方法の許容差について主査より説明があつた.

3. 炭素, けい素, マンガンおよびりんについては最終原案を次回に審議することになった. いおう, クロムなどもできれば同様に行なうことになった.

4. そのほか次の元素の分析方法につき討議を行なった.

(1) ニッケル, (2) モリブデン, (3) 銅, (4) タングステン, (5) コバルト, (6) チタン, (7) アルミニウム, (8) ひ素, (9) すず, (10) ほう素, (11) 窒素, (12) 鉛, (13) マグネシウム, (14) テルル, (15) アンチモン.

ほたる石分析小委員会

第 2 回小委員会 開催日: 9 月 6 日. 出席者: 村岡小委員長, 他 17 名.

会議事項

1. 第 1 回分析共同実験のまとめについて概略次のような報告が行なわれた.

CaCO₃ は試料 0.5 g および水浴上で加熱した場合が

高値を示し、正しい条件の判定は標準値既知の試料で実験しないとつけ難い。また SiO_2 、 CaF_2 についてはどの条件でも大差ないが試料 5g の場合はパラッキの大きいデータが多かった。

2. 各委員により各種資料の説明があり討議の結果次の諸項目について共同実験を実施することになった。

- (1) 鉄および鋼の炭素定量法中ガス容量法に準じて C 量を定量して CaCO_3 量を求める。
- (2) 全カルシウムの定量実験を実施する。
- (3) 酢酸分解法による CaCO_3 、 SiO_2 、 CaF_2 の定量実験を実施する。
- (4) CO_2 の発生率、F の影響および CaCO_3 定量値との関係について Mg の少ない試料によつて八幡東研で実験する。

設備技術部会

第3回部会 開催日：9月1日。出席者：桂部会長，他 21 名。

会議事項

1. 第1回銑鋼設備分科会報告

焼結機の大型化をテーマにとりあげ、鉄鋼メーカー、機械メーカーで討議した。製鉄機械について、ユーザーとメーカーとの交流の場を持つたことは非常に有意義であった。

2. 第1回圧延設備分科会

分塊圧延機、ユニバーサルミルについて討議した。ユーザー側は要求諸元を定量化し詳細にメーカーに伝える必要があるように思われた。

3. クレーンスケール小委員会報告

紀過報告、試作の問題点と成功のうちに終了した試験結果が報告された。

4. 工業技術院木寺課長よりの報告

通産省では、資本自由化対策として昭和43年度の予算案に高度の新製品および新技術の開発振興政策として、大型プロジェクトに対するもの、鋳工業技術補助金の増額など考えている旨報告された。

クレーンスケール小委員会

第17回小委員会 開催日：8月31日。出席者：25名。

会議事項

1. 試作機据付け後の使用状況

こうかんを受ける重点刃の破損によりスパンの変動が生じたが、チェックロッドの設計変更により順調に動いている旨報告された。

2. 試作機見学

鋳込み作業時に試作機を見学した。のろの推定も約±200kgであり、従来最後から2本目が指定単重に満たないことがあったが、試作機の使用により最終鋼塊まで良塊となり作業も非常に楽になった。作業がさらに安定すれば転灯への操入銑鉄の減量も可能となることが予想される。

3. その他

本試作研究の成功を確認したので、今回を最終回とすることになった。この結果は鉄鋼協会秋期講演大会に発表することになった。

鋼板部会

分塊設備分科会

第2回分科会 開催日：9月13日。出席者：荒木主査(代理)，他 21 名。

会議事項

1. 各社からアンケートにより求めた基礎資料に基づいて作成した幹事案が資料により説明され検討された。

2. 連続式加熱炉を有する分塊工場は、大形または中小形設備分科会算定式によることとなつたが、これ以外の圧延機および剪断機の算定式および各係数について前回同様で了承された。

3. 簡略式については、設備諸元のうち出力とロールリフトのみを要因とした式が提示されたが、次回にはその他の要因も加味したミル別の算定式を考えることになった。

鉄鋼生産設備能力調査委員会

製鋼設備部会

平炉設備分科会

第2回分科会 開催日：7月27日。出席者：盛部会長，他 15 名。

会議事項

久芳主査から幹事会の活動の経緯について報告があり、次いで幹事会社が分担して調査を進めた分について中間報告を行なつた。

綜括的にアンケートを通じて平炉操業の状況は以前と比してかなり変わつている。

すなわち

1. 溶銑平炉操業は各社とも生産のパッファー的な考えをとつており操業条件の変動は非常に大きい。

2. 実績 t/hr-算定 t/hr (前回算定式による) の値は溶銑使用の場合はマイナスになつている。

などである。

今後生産能率(t/hr)に関する2, 3の点について更に検討をすすめる予定である。

厚板設備分科会

第4回分科会 開催日：8月18, 19日。出席者：有村主査，他 14 名。

会議事項

1. 前回にひきつづき、形状調整圧延中のロール回転数、圧延材長さ、 δ (=成品形状調整パス中の圧延材長さの和/圧延材長さ)、適正稼動時間、その他圧延材に関する係数の検討を行なつた。

2. 最終算定試案の検討

1. で決定した諸係数を用いて圧延設備能力の概算を行なつた。その結果圧下率の異なる神鋼2圧、中板をのぞいて誤差は10%以内におさまるため今回の算定式には第1回から第4回までに討議決定された算定式、諸係数を用いることになった。

3. 加熱炉能力小委員会の報告

幹事より第1回連続加熱炉算定小委について、厚板設備分科会関係は今年度は小委員会にて結論を出すところまでは至らず、したがって答申は現在の算定式を基本と

することになった旨報告があつた。

ホットストリップ設備分科会

第3回分科会 開催日：7月28日。出席者：吉田主査(代理)，他 18名。

会議事項

基礎資料をもとに、各項目について討議し年間稼働時間、粗圧延機のアイドルタイム、材料間ピッチ、仕上げ圧延機の材料用ピッチなどを決定した。また次回迄に「スラブ寸法構成」と「圧延能力に影響をおよぼす鋼種および補正係数」を調査し加熱炉の能力および仕上げ圧延機出口速度についての検討を行なう。

コールドストリップ設備分科会

第4回分科会 開催日：9月19日。出席者：吉田主査代理，他 16名。

会議事項

コールドストリップ設備能力算定方式の見直しについて、各社にアンケートを出していたが、その集約結果がまとまつたので、諸係数についての検討を行なつた。タンデムコールドミルについては、設備仕様、理論値および実績から検討し圧延準備時間は板厚区分別に集約決定し、圧延速度は、ミル別、板厚別に集約した方法で決定した。またコイル単重についても実績コイル単重を考慮するよう検討していくことにした。一応タンデムミルは、寸法個々についての t/hr の試算ができるまでに到つた。レバースミル関係については今回の調査を集計し検討していくことになつた。

条鋼設備部会

中小形設備分科会

第4回中小形設備分科会 開催日：8月14, 15日，出席者：中西主査，他 17名。

会議事項

1. 連続加熱炉能力算定式小委員会報告

8月4日に開かれた標記小委員会に出席した担当委員より、小委員会の報告がなされ、小委員会より課題となつた。燃料係数について討議された。

2. 切断・冷却設備能力算定式の検討

アンケートの結果をもとに、基本的には各社の平均値をとることに決定した。

3. 圧延設備能力算定式の検討

連続ミル、半連続ミル、不連続ミルごとに検討し、半連続ミルのクロスカントリー配置のもの、不連続ミルの走行チルチングテーブル型式のものを除き、大体係数を決定した。

4. 標準稼働体制の検討

3交替制を標準とし、参考値として1交替、2交替も付記することとした。

5. 品種のグループ化について

形鋼の代表サイズについては、一とおり決定した。異形形鋼の代表サイズについて次回検討することにした。

第5回分科会 開催日：9月13日。出席者：中西主査他 15名。

会議事項

1. 連続加熱炉能力算定式小委員会報告

9月6日に開催された標記小委員会に出席した担当

委員より、小委員会の報告がなされた。

2. 走行チルチングテーブルの係数見直し

達成可能な数値とすることにし、並列3台、並列4台別々に係数を決定した。

3. 異形形鋼の代表サイズおよび係数検討

異形形鋼として、リムバー、シートバーほか7品種を選び、それぞれ代表サイズを決定した。

4. クロスカントリー配置の係数検討

今回は半連続ミルに、クロスカントリーの項を加えることになつてはいたが、品種が多岐にわたるため、別表にすることになつた。

5. 実働率 α のアンケート方式検討

担当委員よりアンケート案の説明があり了承された。各社はこのアンケートに従い担当委員まで回答することになつた。

線材設備分科会

第3回分科会 開催日：9月1日。出席者：水内幹事他 12名。

会議事項

1. 連続加熱炉能力算定式小委員会報告

8月4日に開かれた標記小委員会について、幹事より報告があつた。

2. 送線機設備について

送線機能力算定票の中で、 L_s/V_s , T_i , P_s について討議され、その定義が明らかにされた。

3. 今後の進め方について

今回をもつて、前回答申の線材設備能力算定式の見直しは終了した。

簡略式について、未着手であるが、第3回圧延設備総合部会の結果を見て、進め方を決めることになつた。

鋼管設備部会

第8回部会 開催日：9月5日。出席者：山田主査代理，他 19名。

会議事項

1. 電鍮管関係

精密式で算出した値と実績とを比較し、一部係数の修正を行なつた。簡略式は係数 K の値を求め計算したところ全国合計で精密式との差が+2.5%であり十分満足すべきものであることが確認された。

2. マンネスマン関係

簡略式の係数の一部を修正し、精密式、簡略式を用いた算定値と実績を比較し十分満足する値が得られた。

標準化委員会

普通鋼分科会

第19回分科会 開催日：8月28日。出席者：山岡主査他 14名。

会議事項

1. 造船用鋼板の記号統一

前回打合わせにもとづいた整理案が提出され検討の結果一部修正の上承認された。

2. 表面処理鋼板の厚さ塗膜呼称および重量算出法の統一

1) JIS 以外の溶融亜鉛メッキ鋼板 2) 電気亜鉛メッ

キ鋼板, 3) ターンメッキ鋼板, 4) アルミメッキ鋼板について検討したが, 事務局が結果を整理し, 次回確認の上標準化委員長名で各社へ通知することになった。

第20回分科会 開催日: 9月18日. 出席者: 山岡主査 他 18名.

会議事項

1. 造船用鋼材記号統一について

首記につき造工会と打ち合わせを鉄鋼協会事務局が推進する旨報告がなされた。

2. 表面処理鋼板厚さ, 塗膜呼称と重量算出統一法の確認。

事務局より確認案が提出され, 亜鉛附着量呼称につき一社から疑議が出たが統一案は可決された。

3. 低温圧力容器用鋼材の規格原案下打ち合わせ

種々検討されたが原案分科会前にもう一度メーカー打ち合わせを行なうことになった。

特殊鋼分科会

第12回分科会 開催日: 9月20日. 出席者: 西主査, 他 18名.

会議事項

1. 資料番号のつけ方について, 各社の固有番号をきめ, 開催番号—議事番号—(各社固有番号)のように, 資料番号をつけることにした。

2. 規格の見直しについて, 各社から中間報告が行なわれた。今月末までに最終意見を協会に提出することを確認した。

3. 特殊鋼規格分類体系について

1) 特殊鋼規格分類体系を検討する目的, 必要性が不明確である 2) 特殊鋼, 普通鋼と区分する必要がないのではないかと 3) 特殊鋼だけの分類体系を考えるのは至難である 4) 全体の分類体系を考えるならば別の機関でやるべきだ 5) 第1分類は圧延鋼材として普通鋼, 特殊鋼を第2分類としたらどうか 6) 普通鋼の分類体系に鋼管・線材があるので特殊鋼分類体系にも当然鋼管・線材が入るべきだ。など討議された。各社の提出資料を整理し今後の進め方を審議することになった。

ISO 鉄鋼部会

第1回 TC17/SC1 分科会 開催日: 9月8日. 出席者: 神森主査代理, 他 7名.

会議事項

1. 今回鉄鋼協会標準化委員会内に ISO 鉄鋼部会が設置されその中に SC1 分科会がおかれ, TC17/SC1 関係の審議を担当することになった旨主査代理より報告があり, 主査, 委員, 幹事の紹介が行なわれた。

2. 来る9月26, 27日にイタリアのポロニアでTC17/SC1 第3回国際会議が開催されるので, 住友金属中央技術研究所の新見敬古主任研究員を日本代表として送ることを決定した。TC17/SC1 では欧州各国が協力して原案を作成しており, 欧州外より大きな意見を述べることは困難なので, 今回はどのような方法で協力するのが日本にとって有益かを調査してもらうことになった。

3. 次回は新見代表が帰国後, 報告をきくことになった。

鉄鋼標準試料委員会

第21回委員会 開催日: 9月9日. 出席者: 神森委員長代理, 他 20名.

会議事項

1. 日本鉄鋼標準試料および旧日本鉄鋼標準試料の在庫量報告。

2. 鉄鋼標準試料の製造状況, 製造予定につき報告および検討が行なわれた。フェロアロイについては分析方法規格, 成分規格改正中なのでその終了時期である43年春に製造を開始する予定でフェロアロイ協会が必要調査中。新たに製造する鋼種として炭素鋼シリーズ6種1組の機器分析用とほたる石分析小委員会から申し入れのあったほたる石3銘柄を承認した。Residual Seriesについてはさらに検討することになった。

3. 鉄鋼標準試料の一般分譲について, 少し宣伝をして広く一般の便宜に供した方が製造原価も下がるのではないかと積極的な意見が多かった。これにつき「分析化学」誌上に解説として技術的な説明が掲載される予定になっており「鉄と鋼」および「Trans. ISIJ」誌上にも広告を出す予定であることを報告した。これに関連して海外からも引き合いがあるので取り扱い商社として西進商事を指定したい旨, 理由の説明があり承認された。また現在各標準試料の単価を決めているが, 商社に渡す場合も一般消費者に渡す場合も同一価格としているため, 単価を公表すると種々トラブルがあるので一般に分譲する場合に限り 1000円ずつ値上げしたい旨協会側より説明があり原則的に承認された。

材料試験原子炉利用委員会

第4回委員会 開催日: 9月19日. 出席者: 長谷川委員長, 他 30名.

会議事項

委員長より原研側の事情で再び試験片本数が減少された旨説明があり, 第I期分の試験計画案の再検討および第II期分の試験内容の決定を行なった。I期は主として圧力容器用鋼材の試験とし, total 271本, II期分は溶接部およびステンレスに主体をおいて total 225本が決定された。I, II期の試料は10月中旬に原研から配布される仕様書にしたがつて各社作製し, 43年1月までに納入する。

鉄鋼基礎共同研究会

非金属介在物部会

第6回部会 開催日: 8月22日. 出席者: 荒木部会長 他 29名.

会議事項

1. リムド鋼介在物研究の基礎的展開

リムド鋼中介在物の生成機構に関する研究を通産省鉄工業補助金研究の展開として行なうことが了承された。

2. キルド鋼介在物の中間報告

キルド鋼分科会で遂行中の共同研究成果が発表された。

3. 委員研究成果発表 “リムド鋼塊および鋼片の加工

に伴う非金属介在物の変形について”委員美馬源次郎氏代理山口氏より発表され、高温固相反応について討論がなされた。

4. 部会運営について

リムド鋼分科会、キルド鋼分科会組織で今後プロジェクト研究を進めていくことになった。

鉄鋼の照射試験研究合同委員会

第28回委員会 開催日：9月18日。出席者：長谷川委員長，他 32 名。

会議事項

1. MAPI から SERAI 第3次照射試験の最終報告の説明があつた。

2. 第3次照射試験研究実績報告書の討議ならびに承認。

分担章節にしたがつて各委員から内容の説明があり、

討議ののち承認された。

なお、かなりのミスプリントがあるので各委員は2週間以内に訂正箇所を協会にしらせ、それにしたがつて正誤表を作成、送付する。

昭和 38 年よりつづいた合同委員会は第 28 回をもつて形式上は解散とするが、残務整理のため、幹事会は存続することになった。

評議員逝去

本会評議員莊清彦君（三菱商事会長）は9月28日心筋こうそくのため逝去せられました。謹んで哀悼の意を表します。

本会評議員中川不器男君（トヨタ自動車工業社長）は10月13日心筋こうそくのため逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

新入会員氏名

(昭和42年7月1日～8月31日)

維持会員		正会員		新入会員	
明知耐火煉瓦(株)	1口	奥村 慎夫	日本鋼管(株)本社	高田 義雄	日本砂鉄鋼業(株)
大阪プラント工業(株)	3口	伊藤 武芳	技研	保明 裕	海外新聞普及(株)
岩本 元繁	富士製鉄(株)広畑	永山 氏正	水江	大西 宏己	臨港製鉄(株)
古閑 正治	〃	稲数 直次	(株)淀川製鋼所泉大津	中川 清次	(株)横河電機製作所
小西 勝	〃	宮内 昭範	〃	佐藤雅一郎	(株)日本工具製作所
西川 展裕	〃	山本 徹明	〃 呉	斉藤 恕	東化工(株)
伊藤 憲裕	〃	井上 和政	鈴木金属工業(株)	中里 一英	北海道立工業試験場
鈴木 興三	釜石	鈴木 昭弘	〃	横見 襄	(株)八幡金属加工
古橋 久司	〃	中川 昭	〃	高井 耕一	富士電機製造(株)
望月 志郎	〃	下郷寿太郎	東海特殊鋼(株)	河合 久孝	三菱重工業(株)
稲角 忠弘	〃	深尾雄四郎	〃	那須 征雄	日特金属工業(株)
品田 功一	〃	霜出 憲一	(株)中山製鋼所	矢野 正	都立工業高等専門学校
井上 展夫	名古屋	馬場 恒二	〃	増子 昇	東京大学
玉野井 要	〃	伊藤 照明	三菱製鋼(株)長崎	佐藤 雄孝	東北大学選研
子安 善郎	室蘭	西山 英喜	〃	萩原 進	熊本工業大学
安倍 勲	八幡製鉄(株)八幡	大浜 照久	日新製鋼(株)呉	山口 隆生	中部工業大学
永井 勲	〃	上杉 孝興	〃	学 生 会 員	
三好 久光	〃	寺岡 英喜	特殊製鋼(株)	岡村 祐夫	名古屋大学工学部
村瀬 昭次	〃	三浦 茂	〃	小島 康德	〃
安元 弘道	〃	高橋 功夫	石川島播磨重工業(株)	近藤 桓次	〃
鈴木 久夫	本社	岡部 喜治	〃	下田 輝久	〃
藤巻 弘昭	〃	沢井 誠二	日本冶金工業(株)	松島 美継	〃
橋爪 利夫	東研	山本 正道	〃	元尾 昭彦	〃
速水 哲博	〃	大橋 克矩	日本金属工業(株)川崎	田野 博武	名古屋大学大学院鉄鋼工学
稲垣 貞男	川崎製鉄(株)千葉	斉藤 正雄	愛鋼工業(株)	秋月 敏夫	鉄鋼短期大学
大坪 俊治	〃	鎌田 啓一	八幡溶接棒(株)	由田 征史	〃
木畑 朝晴	〃	田牧 忠重	愛知製鋼(株)	前花 忠夫	大阪大学工学部
滝谷 敬一郎	〃	目崎勝太郎	八幡鋼管(株)	入間川 博	東北学院大学工学部
垣生 泰弘	水島	柴田 義人	大阪製鋼(株)	外 国 会 員	
村田 賢治	〃	上妻 義美	(株)中山製鋼所船町	Ellis Mount	(U. S. A.)
恩田 怜	葺合	斉田 勇三	(株)互省製作所	B. C. Rowe	(Australia)
小倉 慧	(株)日立製作所日立	川浪 儀祐	三菱鋁業(株)	H. A. John	(U. S. A.)
前野勝三郎	〃	北村 和男	大阪製鎖造機(株)	H. P. Stüwe	(Germany)
森本 忠興	〃	石原 一彰	大阪成形工業(株)	Bruno Sommecal	(Italia)
清野 洋一	勝田	金谷 謙介	大阪窯業耐火煉瓦(株)	Rudolph Tietig, Jr.	(U. S. A.)
石井 満	中研	西本 秀雄	金井重要工業(株)	Brita Nachmansson	(Sweden)
伊藤 重晴	(株)神戸製鋼所神戸	島村勝三郎	昭和電工(株)	M. Ruiz Exparza	(Mexico)
寺垣 俊久	〃	岡松 啓二	東海鋼業(株)	Carl-Bertil Berglund	(Sweden)
金子伝太郎	本社	三浦 八郎	山田商事(株)		
		大野 要	川惣電機工業(株)		
		冬室 真夫	日本ドロマイト工業(株)		